

WWL 県外研修に行ってきました

8月5日（月）、6日（火）に WWL 事業の一環で東京へ県外研修に行ってきました。

1日目は東京ステーション開発、時代屋ウスイ、ZERO 株式会社を訪問しました。東京ステーション開発では、使われなくなった新幹線のアルミの廃材を再利用し環境負担を減らしていることを学びました。また、東京駅の中で新幹線の廃材を使っている箇所を探しました。



浅草にある時代屋ウスイでは、人力車のサービスをされている方から、人力車の歴史からどんな方にも楽しんでもらえるように工夫していることをお聞きしました。最後には、実際に人力車を動かす体験をしました。



ZERO 株式会社では、フードロス削減のために fuubo という登録制の自動販売機を開発、設置しています。fuubo を開発した経緯や狙い、フードロス削減について私たちができること、世の中の問題を解決するために重要な考え方等、様々なことを話していただきました。



2日目はプライドハウス東京レガシーとパナソニックセンター東京へ行きました。プライドハウス東京レガシーはLGBTQの情報を発信し、安心・安全な居場所を提供する施設です。多様性とうどう向き合っていくか意見を交換することができました。



パナソニックセンター東京では、パナソニックで実際行っている地球温暖化問題への取り組みを知り、環境に関する理解を深め、一人ひとりが課題解決に向かってアクションを起こすことの大切さを学びました。



生徒の感想

- どの企業も環境問題に取り組んでいるけれど、アプローチの仕方は様々で、同じ問題を解決するにも色々な働きかけがあるんだなと勉強になった。企業として SDGs に取り組む難しさやメリットが見えてきて勉強になった。
- ZERO 株式会社で聞いた「アンチテーゼを考える」という考え方が印象的だった。誰かが損をした場合、誰かが得をしている可能性があるということから私たちの仮説においては、誰が損得をしているのか考えてみようと思った。
- プライドハウス東京レガシーでは、LGBTQ+の人たちだけでなく、私たちを含め誰にでも心の依存先が必要であるということがわかりました。
- 実際に活動に携わっている人から直接話を聞くことの重大さを感じた。
- 私たちは今調べたり話を聞いたりしているだけで、誰かに何か影響を与えることができていないので、自分たちの立てた仮説に対し、何かしらの行動を起こしたい。
- LGBTQ+が特別にならないための考えとして、多様性という意味では苦手な人にどう関わってきたか、逆に好きな人や家族への関わり方はどうだったか、それぞれの背景と関係性を鑑みて、人とかかわっていくというのはもともと誰もが経験済みなはず、という例えに衝撃を受けた。
- 車いすを使用している高齢者の方々に人力車を直接提供することで、これまで難しかった「高齢者の観光」を可能にしており、当事者の気持ちを考えるという点で再確認できた。
- あらかじめ疑問に思っていたことの解決より「思いやりはいらない」「よりよい自立を目指す」というメッセージから、自分の取り組んでいる課題は「他人と上手に関係を築くには」という単純な問いであることに気が付いた。